### National Teachers Union of Private Universities and Colleges

# で私大ユニオソ・ニュース

題字: 興平 康弘

第88号 2023/07/28 全国私立大学教職員組合(私大ユニオン) 〒101-0003東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館6階 電話03-3262-2151 FAX03-3262-2152 郵便振替00190-3-28088 http://upuc.org/

# 新しさなく新自由主義的政策を踏襲

## 「骨太の方針2023」閣議決定される

岸田政権は、6月16日に「経済財政運営と改革の基本方針2023」を閣議決定した。政権の重要課題 や次年度の予算編成方針を示すものとされている。ワンフレーズ・ポリティクスが得意な小泉純一郎政 権の下で「骨太の方針」と名付けられたが、総論部分の「能書き」はともあれ、内実は内閣府に各省庁か ら集められた役人たちの作文の寄せ木細工に過ぎず、総花的なもので「骨バラの方針」となっている。

#### 「成長と分配の好循環」を唱える「新しい資本主義」

岸田政権が唱える「新しい資本主義」とは何なのか。 「骨太の方針」では、四半世紀にわたるデフレにより、 企業はコスト削減を優先し、国内投資と労働者の賃 金を抑制した結果として、イノベーションの停滞、非 正規雇用の増加や格差の固定化、中間層の減少など の新たな課題に直面してきたと現状分析する。

対して「新しい資本主義」を通じて、経済の付加価値を高め、企業が上げた収益を構造的賃上げによって労働者に分配し、「成長と分配の好循環」を成し遂げ、分厚い中間層を復活させていくとしている。

#### 安倍政治の方向転換を図るかのような岸田政権

新自由主義路線を突き進む小泉純一郎政権の規制緩和政策で非正規雇用は急増し、巷間では「自己責任論」が席巻した。安倍晋三政権は、金融緩和による株価操作で企業の内部留保と株式を保有する富裕層の資産増大を加速させ、中間層を縮小させた。

岸田政権がいう「新しい資本主義」は一見総論としては、小泉・安倍路線からの方向転換を図っているように見受けられるが、問題は各論にある。

#### 実態は新自由主義的政策を進める「骨太の方針」

各論の冒頭には、多様な働き方の推進をめざして 三位一体の労働市場改革が掲げられ、能力向上支 援・職能給の導入・成長分野への円滑化、あわせて 定年時退職金の優遇税制の見直しが盛り込まれた。 これは、終身雇用制の解体を画策すもので、労組の 力が減退している昨今、きわめて危険な動きである。 さらに、GX・DX分野への投資拡大とともに、「資産運用立国」の実現を図るとしているが、株式保有者は富裕層や高齢者がほとんどで、非正規雇用の低賃金労働者には全く無縁の提言と言える。

「骨太の方針」は各論に入るや否や「新しい資本主義」はどこかへ消え失せて、従来の新自由主義的政策をさらに加速させて展開するものとなっている。

#### 研究の「選択と集中」政策を踏襲する岸田政権

大学については、今回は、授業料減免および給付型奨学金の一部拡大、大学院生の授業料後払い制度創設の検討等に言及されている程度に過ぎない。

研究では、科学技術・イノベーション基本計画およびAI・バイテク・マテリアル・宇宙・海洋等の分野別戦略を大学へのメリハリのある重点配分と大学運営業務の合理化を通じて着実に実行するとしている。それは、世界最高水準の研究大学として牽引する国際卓越研究大学の選定に結実されることになる。

#### 「大学ファンド」は第2・第3の「原子カムラ」となる

このような新自由主義を基盤とする「選択と集中」 政策は、結果として、日本の自然科学系研究力を偏 在化させ、総合力を低下させることになる。

自民党政権は、1995年の科学技術基本法制定以降、トップダウン型競争的資金を特定研究分野に投入し、研究の多様性が失われてきた。さらに、安倍政権下で産学連携の仕組みが常態化した。「大学ファンド」は、第2・第3の「原子力ムラ」(産学官の特殊な村社会的利益集団)を誕生させるようなものだ。

## 橋下徹はなぜ文楽が嫌いなのか

藤田 敏和(元関西大学非常勤講師)

#### 1.名残の「初代」国立劇場

1966年11月の開場以来57年桜田濠のお堀端に 偉容を示してきた国立劇場が、建て替えのためこの 10月末で閉場となる。この劇場が任務としてきた歌 舞伎・文楽の公演は、建替期間中も別会場を借りて 今までと同じ回数が維持されるが、現劇場では大劇 場の歌舞伎は9月・10月、小劇場の文楽は8月31日 ~9月24日が最後である。東京のみなさんにはさぞ かし感慨の深いものがおありだろう。京都に生まれ大 阪で仕事をしてきた私は元来東京との縁が薄いのだ が、それでも大劇場の歌舞伎はかなりの回数観に行 った。しかし、小劇場の文楽は今までに3度ぐらいし か聴いていないので、8・9月公演には出向いてみよ うかと考えているところである。

#### 2.橋下徹は「文楽を大事にしない大阪人」の象徴?

とりわけ国立劇場開場以後東京・関東のみなさんが文楽を盛り立てて来られたのに比べ、大阪の人間は文楽を大事にしていないという印象がある。近年においてそんな印象を特に強いものにしたのは、2012年に当時の橋下徹大阪市長が公益財団法人文楽協会への大阪市の補助金の減額を打ち出して「文楽の改革」を迫ったことだろう。技芸員も橋下市長以下との話し合いを行ったが、太夫筆頭・人間国宝の竹本住大夫師(当時87歳)は心労のあまり同年7月に脳梗塞を発症し、半年間休演を余儀なくされた。同師は不屈の闘志で2013年1月公演から復帰されたものの、自分の出来に納得できず2014年5月公演限りで引退された(2018年4月満93歳で逝去)。結果的には橋下(以下敬称を略する)の発案が文楽の至宝の寿命を縮めたわけである。

#### 3. 改革の大阪と文楽協会補助金問題

橋下の政治生活は府知事選出馬表明(2007.12) から大阪市長退任(2015.12)までの僅か8年間だっ たのだが、大阪や日本の政治と行政にもたらした影響は多大なものがあった。橋下は、実は文楽協会へ の補助金削減を府知事の時から始めている。就任当初から府財政の再建に取り組んだ橋下は3年8か月 余りの知事在任中に計2441億円の歳出削減と613 億円の歳入確保に成功した。しかし歳出削減に占める文化関連事業見直しの比率はごく小さく、文楽協会補助金削減はさらにそのほんの一部に過ぎない。 橋下の府知事選出馬表明の1週間後に平松邦夫が 大阪市長に就任、2人は府市連携や文化行政の在り 方をめぐって頻繁に意見交換を行ったが、結局は 1889年に大阪市が成立して以来の府市対立に回帰 した。2010年3月地域政党「大阪維新の会」の結成 準備中に最初の「大阪都構想」が発表され、橋下は大 阪市民の判断を問うべく任期3か月を残して府知事 を辞職し、平松と市長選挙を戦って大勝(府知事選で は盟友松井一郎が圧勝)、同年12月に大阪市長に就 任した。ここから2012年の動きにつながるのである。

#### 4.橋下徹はなぜ文楽が嫌いなのか

「アンチ維新」の方々は大阪維新の会を伝統芸能の破壊者のように仰るが、私はそうは思わない。文楽協会への補助金こそゼロになったものの、橋下の市長在任中も大阪市の文楽そのものを支援する事業は続けられており、その後は拡大している。私が問題にしたいのは、出生から小学校5年までと早稲田大学在学と司法修習の8年間を除いてほとんど大阪市内に住み、仕事をしている橋下の大阪発祥の伝統芸能である文楽への態度なのである。

知事就任直後の2008年4月に住大夫師から「一 度文楽をご覧になって」と誘われた橋下は2009年4 月に初めて国立文楽劇場を訪れ、通し狂言『義経千 本桜』を見物した。感想は「つまらない。2度目は行か ない」だった。そして2012年7月、住大夫師が倒れて 入院された2週間後、橋下は4年ぶりに文楽劇場を 再訪、夏休み特別公演の第3部で上演された『曾根 崎心中』を観た。今度は「演出が古い。人形遣いがな ぜ顔を出しているのかがわからない。もっと新しくし ないと観客は増えない」と述べた。そっけないことば の裏に、芝居の内容がいたく気に障ったことが見て取 れる。親子関係を回復したいばかりに命を差し出した 妻子とともに一世一代の謀計を企てたのに、その父 に殺されてしまうならず者権太。人間ならぬ狐の子の 親への情愛と兄に疎んじられる自分を比べて涙する 義経。身の潔白を示すために死ぬ若い手代とこれに 殉ずる下級の遊女。彼らのいずれもが、7人の子を養 うためとはいえ弁護士活動の中で常に強者に与して 弱者を挫いてきた自分を告発しているように思えた のではないだろうか。

橋下さん、あなたのその感性は正しい。それこそが 文楽のこころなのだから。